

伝	と			り	う	さ	の	ら	基		が	が	輪	あ	ラ	車	入	人	
え	な	メ		に	だ	せ	器	確	本	こ	る	乗	を	と	ク	を	っ	語	農
る	っ	ガ		立	と	る	用	か	的	こ	た	れ	履	は	タ	降	て	を	業
と、	て	フ		ち	分	の	な	め	な	へ	め	る	い	大	ー	り	い	操	用
会	い	ァ		去	か	に	自	る	見	来	の	よ	た	小	や	て	る	る	ロ
議	る	ーム		った。	る	特	動	こ	落	た	小	う	車	の	汎	開	か	ロ	ボ
室	。	の			と、	段	運	と	と	目	さ	な	両	差	用	け	と	ボ	ッ
に	村	本			我	変	転	に	し	的	な	キ	が	は	コ	放	思	ッ	と
通	松	社			々	わ	車	あ	が	は、	は	ャ	並	あ	ン	た	っ	が	い
さ	が	ビ			は	っ	に	っ	な	手	し	ビ	んで	れ	バ	れた	て	閉	う
れ	受	ル			長	た	過	た。	い	元	ご	ン	いた。	ど	イ	た	いた。	鎖	か
た。	付	の			居	配	ぎ	だ	か	の	ま	と、	た。	い	ン	扉	だ	さ	ら、
	に	20			は	慮	な	が、	を	即	で	キ	ご	れ	ハ	を	が、	れた	
	名	階			無	は	い。	要	現	席	付	ャ	丁	も	ー	除	、	た	四
	前	が、			用	必		は	物	契	い	ビ	寧	履	ベ	く	、	倉	脚
	と				と	要	緊	要	を	約	て	ン	に	帯	ス	と、	実	庫	歩
	要件	受			ば	な	急	は	見	書	い	に	人	か	タ	ト	際	に	行
	を	付			か	さ	止	先	な	に	る。	上		車	、		に		で

フ	た	よ			が	れ	イ			で				一		ビ		の	な	ガ	
ァ	。	い	暫		つ	が	モ	会		広	他			方		ル		か	小	ラ	
丨	ネ	引	く		か	な	な	議		が	方			に		の		か	会	ス	
ム	丨	き	待		な	け	ど	室		る	に			は		の		っ	議	張	
の	ム	締	つ		い	れ	の	の		穀	は			都		両		た	室	り	
CEO	カ	ま	と		。	ば	作	壁		倉	は			心		側		部	の	の	
で	丨	っ	、			、	物	、		地	、			へ		の		屋	束	、	
あ	か	た	3			殆	の	水		帯	稻			向		景		に	を	大	
る	ら	体	人			ど	意	稻			、			け		色		通	抜	き	
と		軀	が			他	匠	麦			、			た		が		さ	け	な	
解	彼	の	入			業	で	大			豆			高		見		れ	る	電	
っ	が	男	っ			種	彩	豆			、			層		え		る	と	話	
た	こ	は	て			の	ら	大			向			ビ		る			、	ボ	
。	の	小	き			大	れ	企			こ			ル		大			会	ッ	
日	メ	林	た			企	て	業			う			群		き			議	ク	
本	ガ	と	。			業	い	と			に					な			室	ス	
式		名	血			区	る	サ			地					部			ー	の	
に		乗	色			別	こ	ツ			平					屋			と	よ	
		っ	の					マ			線					。			札	う	

契 約 書 と 資 料 を 後 ほ ど pdf で CTO の 佐 藤 ま で	「そ う で す か。 な ら よ か っ た で す。 で は、	ない。 表 情 を 変 え ず、 小 林 は 言 葉 を 返 す。	小 林 は こ こ ま で 微 か な 笑 み を 絶 や し て い	の で 後 で 読 ま れ た ら よ ろ し い。」	本 か 毛 を 足 し た だ け だ。 こ こ に 書 い て あ る	じ ゃ な い。 経 産 の ガ イ ド ラ イ ン に 沿 っ て 何	「新 た な 提 案、 と い う よ う な 大 層 な も ん	野 寺 が 低 い 声 で 言 う	村 松 が な に か 言 い か け る の を 制 し て、 小	ず は そ れ を 聞 か せ て く だ さ い。 「	社 か ら 新 た な 提 案 が あ る と 伺 い ま し た。 ま	社 の 基 幹 シ ス テ ム の 刷 新 の 件 に つ い て、 御	そ お 越 し く だ さ い ま し た。 早 速 で す が、 弊	ま す。 こ の 度 は 遠 路 は る ば る 弊 社 へ よ う こ	「皆 さ ん ど う も。 小 林 農 産 の 小 林 と 申 し	い た の は 小 林 だ っ た。	一 同 が 着 座 す る の を 待 っ て、 先 に 口 を 開	換 を 行 う。	習 っ て、 他 二 名 の CFO 、 CTO と も カ ー ド 交
--	---	---	--	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---	--	--	--	-------------------	---

こ	と	を	織		偶			契	用		目				宜	ま	ン	お	
の	は	監	で	「我	々	「そ	唸	約	ロ	「何	だ	小	「お	数		す	を	渡	
国	議	督	す	々	だ	の	る	を	ボ	の	け	林	い、	秒		が、	し	し	
の	論	す	。	は、	と	ガ	よ	結	ツ	こ	は	は	誰	の		見	て	く	
食	す	る	確	一	は	イ	う	び	ト	と	爛	相	の	沈		積	送	だ	
料	る	役	か	法	言	ド	に	た	に	で	々	変	後	黙		額	付	さ	
生	機	所	に、	人	わ	ラ	小	い	関	し	と	わ	、	の		の	いた	い	
産	会	で	経	で	せん	イ	野	だけ	す	ょ	光	ら	小	後		変	ます	。	契
基	は	す	済	す	ぞ	ン	寺	です	る	う	っ	ず	野	、		更	。	約	書
盤	あ	の	産	よ	」	が	が	す	ガ	で	て	表	寺	小		は	あ	に	
を	り	で、	業	。		出	言	よ	イ	」	い	情	が	野		受	、	は	
守	ま	、	省	役		た	う	」	ラ		る	を	が	寺		け	再	明	
る	す	我	は	所		タイ			イ		る	変	吠	が		付	度	日	
た	が、	々	農	と		ミ			ン			え	え	が		け	確	中	
め	あ	も	林	は		ン			に			ない	た	吠		ま	認	に	
の	く	役	水	別		グ			沿			い	。	え		せん	し	サイ	
議	ま	所	産	組		だ			っ			いや				。			
論	で	方	業						た										
で																			

。

日々変化します。当然、戦略は揺るがずと	しかし小野寺先生、ビジネスのやり方は	「よくご存知ですね。ええ、そうです。」	実際あなたはそういう段階を踏んだ。」	う。自社農機の売却と、IaaSの導入に際して、	から、追加で必要な契約を結んでいただろ	い。これまでであれば、一旦契約を結んで	この度のやりくちはあんながたらしくな	とだけ契約を結んでいる。」	からな。だからこそ我々はそのあんながた	談合事件の外部調査委員会の長は私だった	だが、何より、昨年の基盤整備事業を巡る	「ああ、知っている。新聞でも報道され	しょう。」	せん。そのことは小野寺先生もご存知で	の内では唯一、一度も談合に参与していま	3大メガファーム、中堅メガファーム∞社	は知りませんが。実際に、弊社はいいわゆる	イングを行うことはしません。他社の事情	あり陳情です。弊社の利益のためにロビー
---------------------	--------------------	---------------------	--------------------	-------------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------	-------	--------------------	---------------------	---------------------	----------------------	---------------------	---------------------

、

麦、	大豆が	数百万人分	消失すること	を意味	伴います。	1割の減収は、	この国から	米、	しました。	大きい農地には	大いなる責任が	垣にまで及び	ます。	総面積は	100万ha	を突破	我々の管理する	圃場は、	北は網走、	南は石	「小野寺先生、	僕らは	大きくなりました	しました。	しながら、	こんなことを	語った。	としか	答えな	かった。	ただ、	会議室を	見渡	小林はその	質問には、	お話でき	ません、	戦術を変え	させたのか。」	じゃあ、	一つ教えて	欲しい。	何が	君たちの	「君たちが	今でも	青臭くて	安心した	よ。	小野寺の	眉間のシワが	緩む。	い。」	かかっている	んですよ。	綺麗事で	命は守れな	小野寺先生、	今や	数千万人の	国民の命が	か	とは何でも	しますよ。	我々の	仕事には	ね、	食生活を送	っていただけ	ために、	必要なこ	理念を貫	き、国民の	皆様に	安心して	日々	の	も戦術は	変わります	。	我々は、	我々の	創業
----	-----	-------	--------	-----	-------	---------	-------	----	-------	---------	---------	--------	-----	------	--------	-----	---------	------	-------	-----	---------	-----	----------	-------	-------	--------	------	-----	-----	------	-----	------	----	-------	-------	------	------	-------	---------	------	-------	------	----	------	-------	-----	------	------	----	------	--------	-----	-----	--------	-------	------	-------	--------	----	-------	-------	---	-------	-------	-----	------	----	-------	--------	------	------	------	-------	-----	------	----	---	------	-------	---	------	-----	----

。

で	が				れ	林			い			は	持		は	ボ	消	立	す	
す	渴	「	対	そ	。	く			た		小	い	た		い	ッ	え	て	る	
か	い	皆	面	う	で	ん	「		い		野	か	な	な	か	ト	る	て	の	
。	た	さん	に	言	は	、	え		ん		寺	な	い	。	な	を	ん	い	で	
」	で	、	座	い	。	細	え		だ		は	企	業		い	暴	で	る	す	
	し	口	っ	残	」	か	、		ね		目	業	に		ん	走	。	人	よ	
	ょ	が	た	す		い	で		君		を	、			で	さ	だ	々	。	
	う	開	佐	や		話	は		は		見	こ			す	せ	か	の	今	
	。	き	藤	、		は	こ		。		開	の			よ	た	ら	手	、	
	弊	っ	さ	小		の	若		」		い	聖			。	り	我	元	や	
	社	ぱ	ん	野		い	い				た	職				、	々	か	っ	
	の	な	が	寺		衆	で				。	を				盗	は	ら	と	
	麦	し	初	は		に	く					任				難	、	順	の	
	茶	で	め	去		聞	だ					せ				さ	番	に	こ	
	で	す	て	っ		い	さ					る				せ	に	、	と	
	も	よ	口	た		て	い					わ				る	食	で	生	
	い	。	を	。		い	。					け				わ	料	計	計	
	か	喉	開			て	」					に			け	口	が	を		
	が		く			く									に					

。

[illegible]